

きらり

酒田市農業委員会報 No.39



「夏野菜 オクラの収穫」 ～亀ヶ崎地区～

特集

まるごと酒田 体験ツアー (2、3面)

—農業体験を通じた都市との交流事業—

耕作放棄地を活用し地域を元気に (4面)
農地の適切な管理を

農業委員会活動レポート (5面)

キラリな女性 かがやく女性農業者 (6面)
若手農業者リレーエッセー かぜ

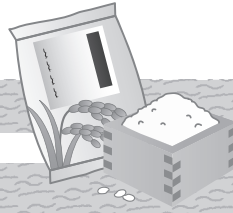
農業一筋 短信 (7面)

進む農業の法人化 —地域での取り組み— (8面)

27 年 夏季号

特集

体験ツアー



農業体験を通じた都市との交流事業

都会の子どもたちが本市を訪れ、農作業を体験しながら農業への理解を深め、地元の方たちとの温かい交流を重ねています。今回は「さかた・きたくふれあい農業体験事業」「酒田市ひらたファームステイ」「田舎まるかじりツアー」の三つの取り組みについて、ご紹介します。

さかた・きたくふれあい農業体験事業

小学校五年生の教科書に、本市の稲作農家の作業が紹介され



はんこたんとかすりの衣装で稲刈り体験を

ています。これを受けて、全国の小学生から酒田の農業についての問合せの便りなどが寄せられます。

そこで、農業への理解を深めてもらおうと平成五年にスタートしたのが「さかた・きたくふれあい農業体験事業」です。

これまで、本楯地区を皮切りに西荒瀬地区、東平田地区と交流を行い、平成二三年度から広野地区で始まった交流が、今年五年目を迎えました。

友好都市である東京都北区の小学五年生を本市の広野地区に招き、稲刈り体験やもちつき等を行い交流を深めています。また、山居倉庫やカント



リーエレベータの見学も行っています。そして、北区の児童は広野小学校児童の受入家庭に、ホームステイします。

また、一月には、稲刈り体験で収穫したコメをプレゼントするため、広野小学校の児童が北区を訪問し、再び交流を行います。

児童の交流がきっかけとなって、広野地区の農業者が北区を訪れ、農産物や芋煮、玉こんにゃくなどを販売しています。この物販活動が酒田産農産物の販路拡大につながり、酒田農業ファンが増えています。

(農業委員 齋藤 均)

酒田市ひらたファームステイ

今年も東京の「田園調布学園中等部」の二年生二〇〇名が訪れ、八月二日より三泊四日の日程で、農村の生活を体験する酒田市ひらたファームステイが開催されます。

このファームステイは、「都市との交流により新たな人と人とのつながりをつくり地域の活性化につなげる」ことをねらいに、平成一五年旧平田町の時から始まり、今年で一三回目とな



ユリの球根の植え付け作業を体験しました



まるごと酒田

ります。これまで受け入れた生徒数は二千数百名を数えます。

枝豆やナスの収穫、大根の種まきなどの農作業体験や、川遊びや庄内さしこ、山菜料理作りや酪農体験などの「ふるさと体験教室」を、実際に体験してもらう内容になっています。

第一回から実行委員長を務めてこられた小林清さん（砂越）は、生徒たちに「五感を大切にしフルに働かせ、今までにない感じ方、新たな感動、日常の学習ではできない体験をしてもらうことを願っている」と話されています。

受入れ家庭は、当初平田地区に限っていましたが、今では本楯地区や広野地区と各地域に広がっています。

ただ一三年が経過し、ご高齢を理由に受入れを辞退する家庭もあり、受入れ家庭の確保に苦労されているようです。

今年も天候に恵まれ、たくさんのお声のもと、素敵な農村生活体験ができますことを祈っています。

（農業委員 後藤保喜）



枝豆の収穫も初めての体験です

田舎まるかじりツアー

J A庄内みどり青年部では、毎年七月末より三日間のスケジュールで、「田舎まるかじりツアー」を行っています。

青年部は、六月に横浜市を中心とした小学校約三〇校を上京運動として訪問し、子どもたちに田んぼ教室を行っています。

そして、酒田市にも来てもらい庄内を知ってもらおうというねらいで、都市部の小学校の児童やその家族を招いてこの事業を続けてきました。

ツアーの内容は、農産物（メロン等）の収穫体験や庄内の名

所見学、青年部の盟友たちの農産物を使つてのバーベキューや泥んこバレーなど盛りだくさんです。

現地に到着したばかりの子どもたちは、みな一様に期待と不安の入り混じった複雑な表情をしています。帰るころにはたくましくなったように見えます。（盛りだくさんだから鍛えられた、ということはないはずですが）そして、一緒に参加したご父兄や先生たちもまた表情が違ってみえます。生気が増して見えるといった感じでしょうか。



メロンの収穫体験の前に説明を受けます

もちろん、我々青年部盟友にとつても、良い勉強の機会でもあります。

これからの時代を担っていく子どもたちとの交流、そして、その保護者、教育者との交流は、お互いとても素晴らしい経験になります。

昨今、ヘリ防除や農地の維持管理など私たち青年部の大半が忙しい状況にありますが、農産物の消費拡大や私たちの思いを伝えるためにも、これからも頑張つて、より良い田舎まるかじりツアーを続けていきたいと思

（農業委員 後藤喜博）



西荒瀬カントリーエレベータを見学

耕作放棄地を活用し地域を元気に

— 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金の活用 —

荒廃した耕作放棄地を引き受けて農地を再生する農業者、農業者等の組織する団体等が行う再生作業や土づくり、作付、加工・販売の試行、必要な施設の整備等の取組を総合的に支援します。

1. 支援内容

- (1) 再生作業（障害物除去等及び土づくり）を一体的に支援
- ①定額支援 …… [5万円/10a] ※中心経営体に集約化する場合は6万円/10a
 - ②定率支援 …… [総事業費の1/2以内] ※重機を用いて行う場合
- (2) 土づくり（2年目については必要な場合） …… [2.5万円/10a]
- (3) 営農定着（再生農地への作物作付） …… [2.5万円/10a]
- (4) 施設等補完整備（農道、農業用機械・施設等の整備） [1/2以内]
- (5) 実証ほ場の設置・運営、試験販売等 [定額]

2. 前提条件

- (1) 農地の賃貸借等契約により土地所有者に代わり再生作業を行い5年間以上耕作することが見込まれること。
- (2) 再生作業を行うに当たって、再生費用が10万円/10a以上必要とする耕作放棄地であること。
- (3) 農振農用地区域内の農地であること。

※戦略作物等を栽培する場合は、土地所有者による再生作業及び農振農用地区域以外の取組も支援の対象です。

3. 取組例

- ①一年目 **再生作業** + **土づくり** → **作物作付**
- ②一年目 **再生作業** + **土づくり**
- 二年目 **土づくり** → **作物作付**

○お問い合わせ

酒田市地域耕作放棄地対策協議会

(農業委員会事務局内)

Tel:0234-26-5767

農地の適切な管理を

農業委員会では、優良農地の確保と有効利用に向けた遊休農地の発生防止と解消、意欲ある多様な農業者への農地集積を図るため、年間を通じて利用状況調査を行っています。

また、七月から九月を強化月間に設定し、遊休農地や違反転用等の早期発見・是正に取り組んでいます。

農地は、国民に食料を供給するための基礎的な生産要素であり、農業者にとっても重要な生産基盤ですが、一旦荒れてしまうと、復旧には多大な労力と費用が必要になります。

農地パトロール

七月中旬から九月末日まで、農地パトロールを行います。

調査内容は、①遊休農地の把握、②違反転用の把握、③農地の一時転用（山砂採取）許可農地の現地確認、④転用許可農地の確認（完了期限を過ぎている農地で報告書の提出がないもの）です。

利用意向調査

農地パトロールによって確認した遊休農地について、農地所有者等に今後の管理の意向を調査し、農地中間管理機構との協働に役立てます。

地域の優良な農地を守り、大切な資源を次世代に引き継ぐため、みなさんのご理解とご協力をお願いします。





決意表明を行う五十嵐会長

農業委員会 活動レポート

全国農業委員会会長大会

五月二八日、東京の日比谷公会堂で平成二七年度の全国農業委員会会長大会が開催されました。

席上、五十嵐農業委員会会長が「農地の確保と有効利用について」をテーマに、当市における担い手への農地の集積状況や農地中間管理事業等の取り組みを説明しました。また、さらなる推進に向けて決意表明をしました。



会報委員会視察研修

六月三〇日に、東京で会報委員会視察研修を行いました。まず初めに見学した印刷工場では、日ごろ目には見えていない全国農業新聞が、まさにホヤホヤの状態で刷り上がる様子に感動を覚えました。

また、全国農業会議所の方々による会報作成について（記事の書き方、取材の仕方等）の研修は、事例を挙げての説明が分かりやすく、今後の会報編集に役立つ大きなヒントを得ることができました。

の周りから加入を推進していこうと講演されました。

酒田市農業者年金協会研修会

七月一七日、酒田市農業者年金協会研修会が酒田市出羽遊心館で開催されました。加入推進をテーマに長野県山ノ内町農業者年金協会の佐々木明雄顧問を講師に招き、協会役員、総代、管内他市町の農業委員会会長などが参加して熱心に耳を傾けました。

研修では、農業者年金の優れた利回りや保険料が全額社会保険料控除になることなど、さまざまなメリットを説明され、まずは自分



講演を熱心に聞く参加者のみなさん

- 農業者年金に加入しましょう**
しっかりと積立てれば豊かになれる
- *** 農業者年金のメリット ***
- ① 少子高齢時代に強い積み立て方式
 - ② 保険料の額は自由に決められます
 - ③ 終身年金で80歳までの保証付き
 - ④ 保険料は全額社会保険料控除
 - ⑤ 手厚い政策支援（保険料の国庫補助）

「Rose & Party」

農業青年の出会い交流イベントを開催します

日時／9月12日(土)

午後4時～

場所／ル・ポットフー

内容／バラのブーケ作り
交流パーティ

※お問い合わせは
酒田市農業委員会へ

第2回

農業委員会の 出前相談を開催します

農地の貸借・売買・転用等農地に関することや農業者年金についてのご相談はありませんか？農業委員が出向いてご相談をお受けいたします。

◇日時 8月25日(火)
午前9時～正午

◇場所 松山農村環境改善センター
(松山地区以外の方も参加いただけます)

キラリな女性

かがやく
女性農業者

農業と向き合う

落野目
佐藤 江里子

私は、県外から専業農家に嫁ぎ、農業を始めました。最初は忙しい時だけ手伝い、他の仕事をするつもりでしたが、いずれはやる時が来るのだからと思い就農しました。決まった休みがなく、意識して外に出ないと人とかかわることの少ない農業は、結婚前に販売の仕事をしてきた私には、時々苦しく感じ、思い悩んだこともあります。

でも、出産し子育てと家事がメインの生活が始まり、気づかされました。それは、いつも新鮮でおいしい野菜や米を食べられることのありがたさ、自分の子どもにも食べさせる物を身近な人が作ってくれることの安心感です。自分も作れるようになり、子どもたちにこ

のありがたさを伝えていかなければと思うようになりました。

今年から二番目の子ども保育園に入園し、空いた時間は農業をするようになりました。同年代の女性農業グループにも入り、月に一度直接お客様に野菜を売る活動をし、楽しみができました。お客様と直接かわる仕事が、やはり私は好きだと強く感じます。

今はまだ家族に甘えてばかりで、一人前の生産者にはなれていませんが、お客様と直接かわる機会を持ちながら農業という仕事を楽しんでいけるようになりたいです。



トルコギキョウの出荷調整作業の様子

かせ

～若手農業者リレーエッセー～



私は、一一年間の社会人経験を経て、就農し、今年で農業六年目になります。また、地域の若手農業者の仲間を求めて青年部に入り、早いもので五年が経ちました。

そんな私が横浜小学校訪問活動「上京運動」に参加したのも、二回目になります。今年も執行部という立場での参加のため、去年以上に緊張した面持ちで、飛行機に乗り込みました。

上京運動とは、横浜市や東京近郊の小学校五年生の社会科の特別授業を行う活動です。基本的に稲作の一連の流れや作業のポイントを説明し、自由な質疑応答

上京運動を自身の成長の糧に

庭田 小野 貴之

の後、校内の田んぼ、バケツ稲の生育指導を行うというものです。今年は近年の米価下落を考慮し、コメの消費拡大を重点的に訴えました。

こうした上京運動の成果として、一つは将来の消費者となる子どもたちにご飯をもっと食べてもらうためのきっかけ作りが挙げられますが、我々の人間的な成長が一番の成果であると思っています。農家はただでさえ人と接する機会が少なく、大規模であればなおさらのことです。

そんな農業青年が、いきなり一〇〇人超の子どもの前に立ち、農業の魅力を精いっぱい伝える授業をするわけですから、否応なく度胸や社交性が身に付きます。また、自身の未熟さを知る良いきっかけにもなるはず。

今年も活動開始から三〇周年の節目となりました。今後先輩方の伝統を引き継ぎ、意義のある運動としていきたいと思っています。



農業委員がおじゃましてお聞きしました!

広野地区

加藤 貞介 貞介 貞介
とよ子 とよ子 とよ子 貞介 貞介 貞介



貞介さん(六七歳)、とよ子さん(六六歳)ご夫妻は、稲作を中心に農業を続けて来ましたが、高校卒業と同時に就農した貞介さんは、親戚や農協の方に教えてもらいながら、目の前の仕事を夢中でこなしたそうです。現在、一〇数畝の経営面積のうち早生品種のもち米「たつこもち」を三畝栽培しています。もち米は九月初めには収穫。その後、はえぬき、コシヒカリの順に収穫作業が続きます。貞介さんは税務申告のエキスパートで、酒田鮑海の申告会の会長を二〇年以上務められ、今



も申告全般の指導に携わっています。その功績は大きく仙台国税局長や酒田税務署長から感謝状や表彰状を多数受けています。また、地元の広野小学校で受け継がれている相撲大会では、相撲の指導等全面的に協力されるほか、今年五年目のさかたきたくふれあい農業体験事業でも、ご自身のほ場で農作業の指導をされています。貞介さんは機械いじりや大工仕事に興味と云います。また、手芸が大好きなとよ子さん、この冬は傘福作りに取り組みされました。見事な傘福は、見る人の優しい笑顔を誘います。仲睦まじいお二人、これからも支え合いながら農業をお続けください。(五十嵐直太郎委員)

短 信

農地中間管理事業

今年度も農地中間管理事業の受付を開始しています。

平成28年度からの貸し借りを希望する場合は、10月までお申し込みください。

昨年度に応募登録された受け手の方は、そのまま継続されま

す。なお、JA庄内みどりでは、次の日程で、「重点相談窓口」を開きますので、お気軽にご相談ください。

◆期 日
8月5・6・10・11・19・20・26・27日

◆時 間
午前9時～午後3時まで

◆場 所
JA庄内みどり酒田・八幡

・松山・平田の各営農課が窓口です。

◆持ち物
〈出し手〉認め印・課税台帳の写し・賃借料を受取る預金通帳

〈受け手〉認め印

※法人化による農地の申し込みは、各組織を通じての申し込みになります

さかた女流地域づくり塾開塾式

職種にとらわれない女性同士のネットワークを作り、女性の感性、発想を活かして農業振興と魅力ある地域づくりを目指そうと「さかた女流地域づくり塾」が六月二二日に開塾しました。

塾生は、農業者、会社員、学生など二八人が登録。塾生たちは、農業の魅力や、それぞれの抱負を語り合いました。



塾生代表があいさつを

農事組合法人「安久里うえだ」

代表理事 守屋 研一



平成一九年に種子生産組合として長年活動してきたメンバーで、農事組合法人を設立しました。設立の数年前から先進地視察を通して、法人の設立や運営を学びながら、自分たちに合った体制・運営方法を何度も話し合いました。現在でも他の法人へ出向き、研修を通して良い所を取り入れるようにしています。現在、組合員一九名、水田面積九五畝、うち種子面積が五四

なんの野菜の花？



ヒント

- ◇ナス科の植物で地下の茎の部分を食用にします。
- ◇6月下旬から7月中旬が収穫のピークです。
- ◇男爵、メークイン、キタアカリなどの種類があり、コロケやサラダにして食べるとおいしいです。

答え・ジャガイモ（馬鈴薯）

鈴、主な転作作物は飼料用米・大豆・加工用米です。法人で所有する農業機械はコンバイン四台、田植え機四台、トラクター一台で機械の有効利用と計画的な更新を目指しています。農業を取り巻く環境は年々厳しいものになっていると感じています。地域の農地を守るために、担い手の確保に力を入れていきたいと思っております。

また、国による米政策の変動を見極めながら、水稲の種子を生産する団体として、高品質・安定生産に努めていくとともに地域農業の発展に貢献していきたいです。



編集後記

七月八日、ミンミン蝉の初鳴きを聞きました。山形地方気象台の発表によると、平年に比べ一七日早く昨年より一〇日早いとのこと。稲の出穂も今年は一、二、三日早い予想で、本誌が皆様のお手元に届くころは、穂揃期を迎えていることでしょう。さて今回は、都市と農村の交流事業を紹介しました。

私も田園調布学園の生徒さんたちを受け入れてきましたが、そのファームステイで生徒さんたちは、色々な感想を述べています。「初対面の私たちなのにとても親切にしてくださいました。自分たちが収穫した枝豆がとてもおいしかった。空気がうまい。初めて天の川を見た」等々。今年も、多くの生徒さんたちが酒田にやって来ます。感想文に、たくさん感謝や感動の言葉がつづられますことを祈っています。

(ごとう)